

西宮市の継続的な防災力向上事業

西宮防災リーダーの会（関係課：防災危機管理課）

事業費 410,054 円

助成額 278,000 円

●当初の課題・事業目的

西宮市は地域の防災リーダーを育成すべく支援しているが、実践的な継続育成が難しい現状であり、有事の際の行政との連携、地域の防災リーダーの育成が急務となっている。

震災から 30 年、住民同士の関係が希薄になった今こそ、市が育成助成した防災士と既に活動中の防災士や防災を学びたい人たちと共に団体を組織し行政と連携を図り、より地域に密着した防災リーダーとなり隣近所の助け合いの推進を展開する。



会長 岸本 正

●事業概要

会の目的に賛同し入会した新たな防災リーダーのスキルアップを図るため、西宮消防署で消防体制を学び訓練施設・車両の見学を実施した。また、大規模な地滑りの発生原因・消火救助救出技術を体験する為、柏原市地すべり資料館見学、阿倍野タスカル（防災センター）の見学研修を実施した。

外部講師による研修は各専門講師により 4 回（防災士の役割について・地域を繋げる防災活動のヒント・韓国の防災事情と官民協力の現状と課題・災害時における要配慮者の現状と課題）の講座を実施した。

イベントの実施は「夏休み親子防災教室」「にしのみや市民祭り・防災用品の展示試食コーナー」「阪神淡路大震災 30 年記念震災時のパネル写真展示と備蓄品紹介」を 3 回実施、西宮市主催の小学校区防災訓練の備蓄品展示コーナーは 2 回（夙川小学校・高須西小学校）参加した。



●事業の成果・工夫した点

施設見学研修・外部講師による研修は参加会員からのアンケート調査の結果、大変満足したと高い評価を得た。

イベントの実施では会員の特技を生かし目を引くデザインのチラシを作成し広報に努めた。

備蓄品展示では今まで他人に説明をした事が無い会員には貴重な体験となった。

●苦労した点・今後の課題

にしのみや市民祭りでの防災用品の展示・防災食の試食コーナーを西宮市民共済会館で実施したが、祭り会場から離れていた為、参加者が少なく急遽、会場でチラシを配布するも、来場者の増加には繋がらなかった。次回からは市の協力を得て、より効果的な広報媒体の利用、スタッフの増員等の課題が残ったが、1.17 のイベントでは留意点のある程度克服し、同じ会場で 150 人の来場者で賑わった。

●代表者の感想

1.17 の震災時の写真パネル展示と備蓄品紹介は防災危機管理課（広報・備蓄品）並びに消防局（写真パネルの借用）の支援を得て多くの参加者から好評で「毎年 1.17 に実施して欲しい」「自分の近所しか被害状況を知らなかった」等の感想を戴き、記録と記憶のリレーが防災には必須と実感した。